

# OG訪問

千葉県鴨川市にある亀田総合病院は医療サービス・経営、双方のクオリティの高さで非常に注目されている病院です。本学OGの森さんも、STとして同病院で多彩な経験を積んでいます。

医療法人鉄蕉会  
亀田総合病院リハビリテーション室(千葉県) 言語聴覚士  
**森 美琴子**さん (心理科学部言語聴覚療法学科2009年卒業)



## ■ 巨大な総合病院で。

美しい海岸線が続く外房、人口約3万6000人の鴨川市にある亀田メディカルセンターの中核施設、亀田総合病院が森さんの勤務先です。925床、32診療科、医師約400名、看護師約850名を有する同病院は、医療機関では極めて珍しい「カスタマーリレーション部」の設置など、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)、患者満足度の向上を徹底させ「もう一度入院したい病院」「働きたい病院」と、患者さん、医療関係者、またビジネス界からの高い評価で知られます。

同病院のリハビリテーション事業管理部は140人を超える大所帯。森さんが所属するリハビリテーション室もST(言語聴覚士)9名とPT(理学療法士)、OT(作業療法士)、合計50名以上のリハビリスタッフを揃え、発症急性期患者さんに対応しています。森さんは主に救命救急科や脳神経外科の患者さんに、失語症や高次脳機能障害のこぼりのリハビリ、その他疾患の嚥下(食べ物を飲み込むこと)の評価、訓練を行っています。

## ■ 「その日そのときの最大を」。

働き始めて約2年半の森さんは「どのケースも忘れられないものばかり。STとして、人として、意識や視点を変えられたエピソードは挙げれ



年に1度、リハビリスタッフが研究発表を行うリハビリテーション研究会があります。まだ発表経験のない森さんにも、「研究」の視点は身近なものになっています。

ばりがありません」と言います。

「その日そのときの最大を」ということばも森さんが深く意識に刻み込んだものの一つです。心臓血管外科で気管切開、人工呼吸器使用となった患者さんのケースでした。夏の夜空に開く大輪の花火を見せてあげたいと、担当医師、看護師があらゆる方法を検討したそうです。患者さんも、森さんが担当するスピーチカニューレ\*の発声練習で毎回話題にするほど花火を楽しみにしていました。「花火」が患者さんを中心にしたチームの合い言葉のようになりました。結果的には、別の疾患もあり、患者さんは花火を見ることができずに亡くなりましたが、このときチームの一員だったPTが森さんに言ったひと言が「急性期はその日そのときの患者様の最大を引き出してあげることが必要。先を見つつ、でもその時の最大を」でした。

\*気管切開手術後、通常のカニューレ(管)を挿入すると声を出すことができなくなりますが、スピーチカニューレは上部に穴があり、発声が可能です。

## ■ 災害時の医療が目の前で。

3月11日に発生した東日本大震災で、亀田総合病院はいち早く被災者を受け入れました。「リハビリテーション室は被災した人工透析患者様の診療室に、リハスタッフは搬送係になりました。市内に宿泊施設を準備しているわき市の介護老人保健施設入所者・職員を丸ごと受け入れた際も移動を手伝いました。人工呼吸器の方の受け入れ時には、STとして離脱後の摂食リハビリにも関わりました」と森さん。自衛隊のヘリで重症患者さんが搬送されて来るなど、災害時医療の生の体験を得ました。



温かな人間関係と各々の専門性の高さ、どちらも医療の質を支える大切な条件です。



## ■ STのSは、スマイルのS!

「前頭葉の手術でことばと表情の全てを失った患者様が、訓練を経て初めて声を出せた瞬間、初めて笑った瞬間の感動は忘れられません」。患者さんの喜びが森さんを励まし支えます。「日々、STの難しさ、自分の力不足を痛いほど感じますが、患者様にいい変化があったとか笑顔になったとか、小さくても嬉しい、よかったと思う瞬間がたくさんある仕事です。「STのSはスマイルのS」、私が笑顔でいて、患者様も笑顔になれますように、と頑張って仕事をしています。目標は1日1スマイルゲット(笑)」。

人から与えてほしいなら、自分から与えろと言われます。森さんのスマイルはまさにそれ。これからもスマイルで得た日々の感動をどんどんエネルギーに変えて、活躍してくれるでしょう。